

第 2 回 天王寺区区政戦略会議

日 時：平成 2 4 年 1 2 月 1 7 日（月）

午後 7 時 0 0 分～午後 8 時 5 8 分

場 所：天王寺区役所 5 階 502 会議室

○事務局

では、定刻になりましたので、まだ若干お見えになられていない方もおられますが、あともう少ししたらお見えになられると思いますので、始めさせていただきたいと思っています。

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。ただいまから、第 2 回天王寺区区政戦略会議を開催させていただきます。

早速ではございますけれども、議題に進みたいと思います。

議題 1 としまして、1 1 月 2 9 日開催の区政有識者会議との合同会議の場におきまして、十分な時間をご用意できませんでしたけれども、天王寺区将来ビジョン（素案）につきまして、今回ご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。資料の内容につきましては、1 1 月 2 9 日開催の合同会議において資料をお配りさせていただいておりますので、ご説明については大幅に割愛させていただき、ビジョンに対する区長の思いについて、ちょっとご説明のほうをさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

では区長、お願いします。

○水谷区長

項目別に一つ一つやって話したほうがやりやすすくないですか。お手元の横長のペーパーのほうをごらんいただきたいと思います。A 3 サイズであると思うんですけれども、こういうやつです。それとはまた別に、この冊子があるかと思うんですが、こ

れが将来ビジョンの詳述版と言いますか、全体の分でございまして、概要を示したものがこのA3の表裏の資料になってございます。先日、委員さんのほうからもこの将来ビジョンの中で、特に優先順位はどういう項目なのかとか、長々と書いてるけどエッセンスを抜き出すとどういうことになるのかとかいったご指摘があったかと思うんですが、それらについてまとめたのがこのA3の説明用レジメでございます。いろいろこの将来ビジョン、大体スパンとしては5年間をイメージして、さまざまな施策・事業について、今後こういう方針で取り組んでいきたいというものを示したものでございますが、中でも最重要視するものを具体的にそのA3資料にまとめております。

大きな4つの柱がございまして、右上の四角の中にも示しておりますように、みんなの思いが区政に反映されているまち、いわゆる区民の声、集約を徹底するまちということでございます。それから、未来を担う人材が育成されているまち、子育て支援を含む子どもたちの将来に対する投資を進めていこうという方針でございます。それから、命を守る政策がしっかり進められているまち。おひとり暮らしのお年寄りを初め、障がいのある方やそのほかのお年寄りなどへの福祉の充当と、あと加えまして、今後やっぱり上町断層帯地震等も懸念されておりますから、その防災対策を徹底してまいろうということで、命を守る政策という方針も掲げております。

それから最後に、天王寺区には歴史的、文化的資産が多数ございますから、これを活かして天王寺区のシティ・プロモーション、まちのブランド化をさらに進めて、より多くの人、物、金を外から引き出していこうという方針を掲げております。この4本柱に沿って、下にいろいろと書いてます。これはいろいろ個別にテーマがありますから、一つずつちょっと簡単に説明して、その都度また皆さんからご意見をいただきたいと思います。

一番上の区民の声集約プロセスの強化というところなんですけども、これはもう既にやってます。これを今後も続けていきますという内容でございます。じゃあ、具体

的に何をやってるかということですが、大きく2つございまして、まず1つは、今ここでやってるような区政会議でございます。今までやっぱり各種団体の代表者の方を中心にご意見を集約してましたけども、それだけではなくて、これはまさに皆さんのような公募委員の方からもご意見を集約する機会というものを設けております。一方で、あなたの声をつなげ隊という活動を続けております。区役所職員20名程度のチームを編成して、例えば学校選択制是か非か、時々テーマに応じて、区民のお宅を訪ねるなどして、ご意見を伺っていくという取組を進めています。よくサイレント・マジョリティ、日ごろ区政に対して意見を言う機会のない方からどうやって意見を拾っていくかということが取りざたされますが、まさにそれに対する取組として、このつなげ隊活動をしています。今までの行政というのはどうしてもパブリックコメントとか、アンケートに代表されるように、こういうことをやりますと、どうぞ意見を言いたい人は言ってきてくださいと、受動的に構える傾向がありましたけれども、そうではなくて、我々はこういう施策を進めていきますというのを区民お一人お一人に能動的にアプローチをしていって、ご意見を伺っていくという取組を日本全国の行政に先駆けて行いたい、今まさにやってるわけですが、これを強化してまいりたいという方針でございます。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。じゃあ、議長のほうに引き取らせていただきます。

この会議も実質3回目なんですけれども、前回ちょっとおかしい形になりまして、残念だなと思っておりました。あのときにビジョンの説明がありまして、ビジョンの中身につきましては、三木さんから塾の費用をどうするのかという意見がございましたけれども、そのときに優先順位をどう考えるのか、優先順位に従って議論すべきではないかと思っておりました。今日、ここに出された1枚裏表の資料は、区長が考える優先順位の流れに沿って書いてあるということでございますので、あくまでも我々の機能は区政に対する意見ですけども、区政の全責任は新しい制度の中で区長が強い

権限とか、責任を負っておりますので、区長がそういう思いであれば、その区長の考え方に我々戦略会議として意見を申し上げるという形で進めていきたいと思っております。したがって、今、区長から説明のありました、区民の声の集約プロセスの強化につきまして、特に意見とかあるいは考え方があればと思いますけども、ごらんになったとおり、トータルを1時間半でやるということだと、本当に時間がありまないので、これ1つの項目だけで1時間ぐらい使いたいところですけども、そういうことでございますので、それをご考慮の上、ご発言いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

どなたかいらっしゃいますか。はい、どうぞ。

○田中（誠悟）委員

これ、今後の話す課題にはなると思うんですが、評価の仕方というのが、なかなか難しいのかなというふうに私は思ってます。やはり、費用対効果というところが必要になると思いますので、職員18人が最低何時間か活動したときの費用に対しての評価というのをきっちりと考えていかないと、なかなか斬新でおもしろいあれではあるんですが、費用対効果というところの評価が非常に難しい課題なのかなと、その評価の仕方というのをいかにしていくかというところが、重要なのかなというふうに考えます。

○田中（英俊）議長

それはつなげ隊のことですね。

○田中（誠悟）委員

そうです、はい。

○水谷区長

ありがとうございます。費用対効果についてなんですけれども、まずこれ、共通の前提認識としてよく皆さんにご理解いただきたいのが、よく企業とかの投資活動等において、コストベネフィットがどれぐらいあるかということが言われてますけれども、

行政の取り組んでるその施策・事業は、すべからくそのコストベネフィットで捉えきれるものではないよと、ですから、一つ一つについてこれはコストベネフィットの観点で考えたらいいかどうかというのは、その都度、その都度で熟慮をしたほうがいいなと思います。これについては、ある程度やっぱりそういうコスト感覚で捉えられる部分もあるかと思います。その一つの指標が、じゃあ実際、学校選択制のテーマについて是非を問うのであれば、学校選択制の私が考える当事者中の当事者というのは、今、平成26年4月から最短で制度を導入するかしないかという状況でございますから、そのときにちょうど小学校、中学校に入学するであろう子どもの保護者になるわけですね。実際、この子どもの数というものが、小学校の子どもの数、それから未就学児童の子どもの数を足し上げて5,400人おりますから、その5,400人に対して、例えば何%リーチしたか、何%から意見聴取できたかというのがこれ一つの尺度になると思うんです。これはやっぱりその都度その都度で、その到達度を見て、実際その、例えば18人の人件費、それを投じるに見合うだけの民主的正当性の担保という形でのベネフィットが引き出せてるかどうかということ、考え、判断していくべきかなというふうに考えております。

○田中（英俊）議長

よろしいですか。

○田中（誠悟）委員

はい。

○田中（英俊）議長

ほかにご意見ありますか。

○飛田委員

この中に指標、全体的になんですけど、指標で例えば、割合何%とかというふうに書いてあるんですけど、実際にこれと言うのはどのようにしてそのパーセンテージというのは得られるつもりなんですか。

○水谷区長

そうですね、これはアウトカム指標ということで、本当に最終的に一つ一つの施策・事業に対して、効果的であったかどうかを判断する際の指標なんですが、この指標については、例えば区政モニターというのを定期的に天王寺区のほうでも、これはもう全市的にやってるわけですけど、これはアンケート、無作為抽出した人を対象にアンケートを行って、それについて評価をいただくという、そういうところでももちろん、こういうご意見を伺っていきますし、また、この区民の声集約プロセスだけじゃない、ほかの施策・事業については、つなげ隊の活動の中でも、例えば、この事業についてどう思うかというご意見を伺うこともあります。ですからアンケートに協力する人というのは、日ごろからある程度、区政に対して親近感というか、協力意識を持ってる方だと思いますけれども、そういう方からももちろんご評価をいただき、あるいは区政に対して日ごろ、特段意識を持ってないと、興味のない人からもつなげ隊を通じて評価いただいていくと、それによってある程度ここで示してますような、そのパーセンテージというものを、到達させていこうという方針でございます。

○神崎委員

ちなみに、この分母のn数というのは大体どれぐらいになるんでしょう。

○事務局

区民モニターの無作為抽出なんですけれども、年度当初に無作為抽出で1,000人の方にお送りのほうをします。大体、承諾していただけるのが、300から400、400をめざしてやってるところなんですけれども、24年度では、440、450、そのぐらいの分母になっております。その方々に登録いただいて、その登録いただいた方にアンケートを発送するというような形で集約のほうをしております、

○飛田委員

それっていうのは、統計的に有意な母数というのは満たしているということですか。

○事務局

そうですね、大体、３００から４００ほどというふうに聞いております。

○水谷区長

それで人口の何％ということになりますか。大体、一応目安がありますよね、モニターの何％を達してたら、一応その全人口の一定の傾向に適合するという、一応これ統計学に基づいてモニターやってますから。

○事務局

人口に対して何％というようなところではちょっとしてはないんですけれども、今ちょっと母数で３００から４００程度集まっていれば、傾向としては把握できるであろうということになっております。

○田中（誠悟）委員

前回もお話しさせていただいたんですが、今回のアンケートを見せていただいても、やはりコストが書かれていない。これと直接関係ないかもしれないですが、多分例えば家具固定のワークショップをコストも書かれずに賛成ですか、反対ですかと聞かれると、賛成と答える人がほとんどやと思うんです。例えば原発の問題もそうだと思うんですが、賛成ですか反対ですかと言われたら、ないほうがいいですよ、でも今の社会のコスト等を考えれば要るのか要らないのかという議論が分かれると思うんです。ですから、このアンケートに関しては、やはりきっちりとしたコストが出せるものに関してはですよ、区長がおっしゃったとおりに出せないものもあると思うんです。でも、出せるものに関しては、きっちりとした数字を出して、その上で是非かというところを判断いただかないと、ちょっとあのアンケートではノーと答える人はかなり深読みしておられる方かなってしまうかなというように思ってたんです。

○水谷区長

一応、人件費とかそういうコストがどれぐらい個別の施策にかかったかという資料をおつけした上でアンケートは送るようにさせていただいております。確かに、コストも含めた事業内容というか、事業に関する情報を開示した上で評価を伺うというの

が原則だと思います。コストを出せないものがあると今、おっしゃいましたけど、コストを出せないものがあるということじゃなくて、コストをベースにした評価にならない施策事業もあるということのご理解でいただけたらなというふうに思います。

○神崎委員

とはいえ、やっぱりアンケートをする限り、そのコストを併記すべきだとは思いますが。

○水谷区長

ですから、今も申し上げたようにコストを含む事業に関する情報はお出しするということはこれまでもやっておりましたし、これからも継続してということです。

○田中（英俊）議長

特に費用対効果についてのご意見、あるいは計測の仕方についてのご意見がございましたがほかにございますか。

また、あったら戻っても結構ですけども、時間の関係もありますので、2番目の未来を担う人材の育成につきまして、前回も議論があったということを申し上げましたけども、また区長の思いを説明いただいて、議論したいと思います。お願いします。

○水谷区長

時間も非常に限られてますので、端的にやるよう努力します。

未来を担う人材の育成、天王寺区は人口の半分以上が0歳から40歳と、非常に子ども、子育て世代が多い特色を持っていますから、今現在、阪神経済圏も日本の中で非常にだんだん右肩下がりの傾向にあると。日本経済自体がシュリンクしていく中で、これからの大阪、これからの日本を担え得るような人材の育成という意味を込めて、子育て支援の徹底であるとか、子どもの成長をより促していくような機会というものを区としても整えてまいりたいというふうに思っております。

大きな方向は、そこに示してます、戦略1から3の3つの方向性です。まず、1つ目は非常にユニークな才能というか、ユニークな能力を持った、ちょっとエッジの効

いた人材を育てていこうという方向性なんです、具体的に何をするかと言ったら中高生を対象としたインターンシップ、職業体験、職業教育のプログラムを区として用意して、導入していきたいということでございます。東京で、中学、小学校で、進学校とか多数ございますけれども、例にもれず大阪の中でも天王寺区というものは、市内随一の進学校が集積している地域というところもあって、いわゆるその偏差値教育の部分においては、非常に優位にある地域であるという状況がございます。ただし、今多くのメディア等でも取りざたされているように、ただ単に学力面だけ追求しても、ただ単に偏差値面だけ伸ばしても、じゃあ就職できるのかと、社会の中でサバイバルしていけるのかと問われれば非常に厳しい状況がございます。こうした状況に鑑みて、東京ではいまだにこういう小中学校とか、ある程度若い年齢で職業教育をするような取組というようなものが、総合学習の時間等を使って、非常に短期間で行われてるケースがありますが、もうちょっと長いスパンで、子どもが例えば放課後、塾に行く、あるいはスポーツをやると、その第三の選択肢として、例えばIT企業に行って、プログラミングの力を鍛えたりとか、プレゼンテーションのスキルを身につけたりとか、一つそういう選択肢をふやして、子どもの将来の夢を持つきっかけをつくれたらなというふうに思っております。

それから、戦略2のところなんです、乳幼児0歳から2歳の医療費自己負担額の償還などに使えるバウチャー制度というものを検討していきたいというふうに思っております。これは、今0歳から2歳の医療費というものが、月々上限1,000円負担で残っておるわけですが、例えばこの医療費、ちょっと払うのが大変だなと思う方が、この1,000円に充てるためのバウチャーを配ったり、あるいはそのバウチャーですから、これは利用者の本意によって、いろいろ使いどころがあるわけでございます。例えば、東京の杉並区のほうでも同様の施策が実施されておりますが、例えば、子どもが小学校から英語の授業が大阪でも始まりますが、その前にちょっとうちの子、英語が自信ないから、英語の授業をちょっとレッスンを受けてみたいと、そういうの

に使っていただいたりとか、あるいはベビーヨガとか、そういった事例もございます。要するにその親御さんが子どもをどういうふうに育てていきたいかと、そういう方針に沿って幅広い選択肢の中から利用をしていただけるサービスを整えてまいりたいというふうに考えております。

それから3つ目で、これも今既に行っていることなのでございますが、子育てに関するいろいろと悩みを聞いてあげる、相談に応じてあげられる、そういう拠点を区役所の中に子育てナビゲーションということで設けて、強化していこうということで考えております。

以上が未来を担う人材の育成の大きな方向性です。

○田中（英俊）議長

司会の私が質問をするのもおかしいんですけども、これは一つ聞きたいのは、天王寺区だけの案なのか、施策なのか、ほかの区でもやってることなのかという説明が今までなかったんですけども、今、ご質問の多くは、天王寺区が考え、やろうとしてることというふうに理解して、質問や意見を出させていただいてよろしいのでしょうか。

○水谷区長

もちろんでございます。

○田中（英俊）議長

ということでございますが、皆さん、何かございますか。

○出水委員

インターンシップのプログラムなんですけれども、これは基本的に今、中学生か何か職業体験が何日かあると思うんですけれども、それよりももっとグレードアップしたような、期間も長くという意味での感じの施策になるんですか。

○水谷区長

そうですね。先ほども申し上げたように、総合学習の時間とかで、ちょっちょっとスポットで、企業とかに行って、こういうふうに企業は日々活動してるんだとかっ

ていうのを見て学ぶ、見学的なプログラムは整ってたかと思うんですけど、実際その企業の中に入って、1カ月ないし数カ月の、ちょっと長いスパンをとって、基礎的なビジネススキル等を体験しながら身につける機会というものは、これは東京においてもなかなか見られない制度であろうかというふうに思っております。これを実際、大阪発の新しい職業教育のモデルとして、世に、全国に問いかけてみたいなということで、この戦略を設けさせていただいております。

○出水委員

うちも子どもがいますし、こういうプログラムがきちりできれば、本当にぜひやってもらいたいという思いもありますけども、現状今、その職業体験をやってる中学生たちにとったら、言ったらブランドですよ、自分が日ごろなじんでるような企業に行きたい、そこで何日か行きたい、ただ、どうしても受け入れ企業というのも数も決まってますし、何でここ来たんって聞いたら、じゃんけん負けたからっていう素直な子もいらっしゃる。やっぱりそういうところもありますので、受け入れする会社的にもまだまだきちりプログラムができてる会社もあれば、本当にとりあえず受け入れだけさせてくださいみたいなところも出てくると思うので、その辺はやっぱり入ってもらう子どもたちにもどういう意味で入るかという事前のプログラムの説明であるとか、あと受け入れる企業さんにとっても、どういう意味合いでどれぐらいの期間、その企業として受け入れてもらえるかというのをきちりした上でやらないと、とりあえず預けてお願いしますというのであれば、どちらも不安なまま終わってしまうという思いがあると思うので、そこはきちりやった上でぜひこれをやっていただければという思いはあります。

○水谷区長

ありがとうございます。もちろん、制度設計するからには、その辺は丁寧に詰めていきたいというふうに思っております。やはり、さまざまな選択肢があったほうがいいと思うんです。という意味では、やはり受け入れ先となってくれるような企業は、

これは行政がいろいろと仲介して、そういうプログラムをつくってもらうということになろうかと思いますが、これはある程度多様に確保しておきたいという思いでございます。

実際、じゃあ受け入れ体制についても、小中学生とか、中高生とか、若い年代の子どもが企業に入って、一定のスパンで職業体験をするというプログラムはなかなか日本全国にも例がございませんから。これは内外の事例をちゃんと調査、検討した上で天王寺区モデルというものを確立してまいりたいと思います。今実際、東京のほうであるベンチャー企業なんですけれども、夏休みを利用して中学生、高校生を受け入れて、ウェブデザイン等のスキルを体験させるという取組をやってます。実際ただ単にそういうデザインの能力を鍛えるだけじゃなくて、東京には有名な経営者とかもいますから、そういう経営者にインタビューをさせてあげて、そのインタビューをしてきた内容を実際に自分で原稿にして、ウェブのコンテンツとして載せるという取組もやってます。実際、そういう先例がございますから、そういった先例に携わってる関係者からのヒアリングも徹底した上で、天王寺区全体で、今日は部活に行ったけれども、あしたはちょっと企業に行って能力を鍛えてみようかなとか、子どもが自分の関心に応じて、放課後の利用法を選んでいただけるような体制というものをつくってまいりたいというふうに思っております。

○越村委員

いいでしょうか。とても勉強以外の部分を伸ばすということで、すごくおもしろい試みだとは思いますが、中学生は公立中学でできると思うんですが、高校生を対象にするとすると、はて、天王寺区に住民票のある子にするのか、それとも区内にある高校を対象にしてしまうのか、なかなかその区レベルでも取り組むというのが、ちょっと難しくはないですか。

○水谷区長

そこら辺はまさに制度で詰めるところでしょうね。事務方を中心にどういう制度設

計をするかというところで。基本的な原則としては、天王寺区政ですから、天王寺区に在住してる子どもたちをやっぱ一番ベースに考えるわけでございまして、ただ通学でこちらに受け入れている子どもたちについても、じゃあ、一定の恩恵享受させるかどうかというのは、これはまた事務的に議論、調整が必要なところでしょうから、もちろんそういった点も留意した上で、制度設計しないといけないなという認識は持っております。

○越村委員

となると、学校との連携というのがちょっと難しくなってくるので、天王寺区に住んでいる子が対象となってくると、それはそういう部署をやっぱどこかが担わないとしんどいのかなというところもちょっと考えたりはするんですけども。でも、すごくいい試みだと思うので。その辺も詰めていただいて、うまく進めれたらいいなというふうに思います。

○水谷区長

ありがとうございます。ここに示してるのは、将来ビジョンですので、少しちょっと幅をとって考えております。このインターンシップについても、来年度末までについては調査検討を一応主眼に置いてやると。その中で制度としてもまとまって、受け入れ先の企業としても複数受け入れ先担保できたものについては、順次実施していくという方針でございますから、とにかく何でもいいから先に実施してしまおうではなくて、調査検討を徹底した上で、制度構築を図ると、そういうふうに考えております。

○栗谷委員

このインターンシップの件なんですけども、やはり中学校になってきますと、それぞれ皆さん得意分野とか、方向性、かなり理系や文系など、分かれてくると思うんですけども、同じされるのであれば、天王寺区でも優良な企業はたくさんあると思うんですが、理系なら理系に合った製薬会社、いろいろそういう金属加工とか、いろんなそういうどっちみち行かせてあげたいんやったら、その行った子どもたちがぜひとも

ここをまたもっと、研究したいなというぐらいの、思えるようなやりがいのある企業を選ばないと、ただ単に行っておもしろかったなというあれじゃ、やっぱりもっと、やはり天王寺の教育をぐっと推していくのであれば、中身の濃い企業選びは僕は必要だと思います。やはり、女の子であれば、パン屋さんになりたいとか、デザイナーになりたいとか、いろんな夢があるんですけども、そういう方向性の枠組みというのをきっちり分けてあげて、窓口としては選びやすい方向性を調べたらいいと思います。

○水谷区長

そうですね、本当に受け入れ先どういうのを用意できるかっていうのが非常に大きなポイントになってくると思います。

今、理系というふうにおっしゃいましたけど、これ理系に限らず、文系、あるいは文理におさまらないかどうか、芸術系とか、伝統芸能、伝統工芸とかも含めて、幅広い社会を学ぶ機会というものをやっぱり担保する必要はあると思います。

どうしても、これもよく教育心理学等と言われる話でございますけれども、学校という一つのフィールドの中だけだったら、活躍できる子どもたちの層というものが限られてしまうときというのがあるわけです。だからやっぱり子どもたちの多元的な居場所というか、多元的な活躍できる場所をどうやって社会の中で確保するかということとは非常に重要なテーマでございますが、そういうことに鑑みてもやっぱりこの受け入れ先となるその企業というものは複数、多様に確保したいというふうに考えております。やっぱり今、日本全国見ても、例えばアメリカの中学生とか高校生とかで、もう在学中にすごい例えば、ウェブのポータルサイトみたいなのを開発して、実際にそれで起業して、経営権を売却することで、その売却益をもって大学進学するとか、そういうケースも出てきております。日本の学校でもそういうことを実際にやっている子どもたちというものが少しずつ出てきております。やっぱり天王寺区が本当の文教都市をめざす上では、やっぱりそういう何かこの子どもだったら、この若者だったら日本を変えてくれるんじゃないかっていうような若者を1人でも多く、2人でも多く、

3人でも多く輩出していけるようなそういう取組をぜひこのプログラムを通じて行ってみたいなというふうに考えております。

○神崎委員

私はコストの件で、くどいようなんですけども、こういう項目戦略するというのはすばらしいと思うんです。そのアウトカム、満足度を図るというところもすばらしいことだと思ってます。ただ、これをどの程度の予算でできるかというところをぜひ併記すべきだと思います。

○水谷区長

そうですね。戦略1については、企業側に基本的に協力をいただくことなので、実際こういうプログラムがあるというパンフレットの印刷費とか、あるいは戦略3の子育て支援に関するナビゲーションとかもそういう感じなんですけども、ただただ、戦略2のバウチャーについて、実際にこれ、現物支給になるか現金支給になるかまだ今後詰めていくところなんですけども、それなりのボリューム感のある財源が必要になってまいります。実際にイメージしてるのは、これ2,000万円ほどでございますが、この2,000万円というのは天王寺区の年間予算が大体2億円程度ございますが、その10分の1に相当しますから、それなりのボリューム感を持ってるわけでございます。しかしながら、天王寺区の区予算も区政というものは、これは保険医療から教育、緑化、人権行政と幅広く、やっぱり必要な事業がございますから、何か大きく一つ削って、この2,000万に充てるということが容易ではない状況というものがございます。その中からじゃあ、この2,000万円をどういうふうに捻出していくという一つの方向性として、この後にも示しておろうかと思いますが、1番裏の下から2番目の項目の行政の可能性を広げるための挑戦というところを見ていただきたいんですが、区民センターをNPOフリーオフィス化し、区民センターの維持管理費を大幅削減というふうに明記してるところがございます。この区民センターに代表されるような公共施設の維持管理費というところを削減する形で、この2,000万円近い

コストを生み出していきたいというふうに考えております。今現在、この２億円ほどある天王寺区の年間予算のうちの約４分の１がこの箱物の維持管理費に使われているという状況がございます。コンクリートから人へなんて言っちゃったら何か使い古された表現になってしまうかもしれませんが、こういうハードの維持管理に係る予算というものは、区民センターの場合は大部分がこれ人件費でございますから、ある程度見直す、その方向性もちょっとまたこの後、ご説明しようと思いますが、見直して、子どもたちの支援のために充ててまいりたいというふうに考えております。

○田中（英俊）議長

私、議長から質問ですが、学校、高校で１，０００人を超える高校生を預かってまして天王寺区からも何人か来てるわけですが、一つは高校の場合は大阪府の私学課の指導のもと、指導って言うか、と連携という中でやってるということで、例えばキャリア教育については、よいキャリア教育をやったところには、特別補助金が出る制度もありまして、各学校がどういう形でキャリア教育をやるかということは頭を使ってるところです。

それからもう一つは、文科省の指導要領に基づいてカリキュラムを組んでますから、そのところは絶対削ることができないという制約がある。そういう中でどういう形でできるかという、それは高校も府立の高校も同じなんですけれども、その学校の考え方、学校の姿勢についても区内の各学校、若干のヒアリングをして、本当にやるかどうかということも見ていただきたいと、それから平等、子どもたちに対する平等にどう扱うかという問題もございますし、中身はよさそうですけれども、実際にやるとなったら、いろんな課題が出てくるはずでございまして、それは学校教育者の考え方でも聞いていただければと思います。

○水谷区長

ありがとうございます。まず、各学校のキャリア教育に関する方針とか、カリキュラムとの整合性をどう担保するかというご指摘かと思いますが、この点については基

本的に原則として、放課後利用の授業と、つまり学校教育の行政の中で行う授業ではなくて、いわゆる行政がこれまで行ってきた社会教育に関する事業のその枠の中で行っていこうというふうに考えております。つまり、学校のカリキュラムを一部改編してもらおうとかそういった学校側に負担を過大にかけることなく、行政としてこういう授業、イベントをやりますから、希望の方は放課後ぜひご参加してくださいという方向性で制度設計していこうかというふうに思ってます。ただ、やっぱりそういう中で、中学、高校の各学校のほうからご協力いただけるという話になれば、そのときはまた、個別にご相談をさせていただいて、その学校との整合性がちゃんと図られる形で制度構築をしていくべきかなと思います。ただ、基本線としては、ちゃんと学校で読み書きそろばん的な部分を教えて、社会教育という範囲の中で、その補完的な機能を行政が負います。そこら辺の連携はちゃんとはっきりさせていきたいなというふうに考えております。

○田中（英俊）議長

結構です。ごめんなさい、4時半過ぎとか、そういう時間帯に行くときもありますから、非常に難しいんじゃないかと。

○水谷区長

そうですね、だから本当企業と子どもたちの安全管理等も含めて、企業側とは細かい調整が必要と思います。

○田淵委員

今、区長のご説明があったことは、私個人的には大賛成なんです。ただし、高校生、中学生がどれだけの子どもたちが企業に行けるのかなという物理的な疑問があって、これはこれから詰めていけばいいことだと思うんです。私、今区長が提案されたことは逆の話なんです、逆にそういう企業から学校に来てもらって、NHKの番組で、「ようこそ先輩」という番組がありますよね。今もあるのかどうかは知りませんが、ああいう形であれば一流の人たち、芸術家なり作家なり記者さんなりいろんな専門家、

スペシャリストが学校に1日、2日来て、授業を持たれるということをやられてるんですけど、ああいうことをやっていけば、そんな偉い人やのうてもいいんですよ、ごくごく普通のおじさんでもいいと思うんですけども、企業側から、企業に限らず、スペシャリストの職業を持たれてる方が来て教える。そういうことやったら別に数とかそういうことはあまり制限されずに、どこの学校でもできるん違うのかなと思いました。

○水谷区長

そうですね、そういう取組も確かにいいと思います。実際、そういう機会というのは学校で設けておると思うんですけども、多分これはそれぞれ一長一短なんでしょうね。実際、「ようこそ先輩」みたいな形で来ていただくと、やっぱり一人の講師が10人20人に対して、ある程度のますに対して呼びかけるという形になりますから、一人一人のやっぱり習熟度というものは、やっぱり限定されてしまうというか。基本的に日本のそういう外部から人材を招いて、何かプログラムをやる教育というのは、とりあえずその聞かせる教育じゃないですか。だから、よく大学とかでも最近、僕の母校の早稲田大学とかでも、リーダーシップ教育が大切だということで、田原総一郎が各界の著名人を呼んで、1,000人、2,000人の学生に対して講演会をやるわけです。聞いたら何となくやっぱりドコモはこういう一流のマネジメントをやってる、すばらしいなと、耳学問で何となくわかった気になっちゃう。だけど、耳学問の効果って、そのときは何かわかったようになって、持続しないわけですね。僕はここが逆に今、そういうキャリア教育とかの打ち手として弱い部分だという認識を持っていて、実際にその聞いた上で、一人一人が実際、体験してみると、ある程度の時間軸として挑戦してみる、やって見ると、そういう中でやっぱり自分自身を鍛えていけるような機会というものも設けたいなというふうに思ってます。当然、みんながじゃあそれに参加できるのかと、物理的な制約があるんじゃないのかというご指摘でしたけども、その物理的な制約が限りなく少ない形になるように、いろいろ考えて

まいりたいというふうに思います。例えばインターンシップ以外にでも、そこでも社会教育プログラムを開発というふうに示してますけれども、先日、私も堺市のほうに、あるNPOがやっている教育プログラムを視察に行ってきたんですが、子どもたちが、小学生がそれぞれ自分たちが思い思いに店を開くわけです。八百屋さんをやる子もいたらネイルサロンをやる子もいたりとか、ゲームセンターを経営する子もいたりとかして、実際その中で、子どもたちが通貨もつくって、その通貨をそうやって媒介しながらまちづくりを体験するというプログラムをやってたんです。これもいわゆるインターンシップとはちょっとずれますけれども、子どもたちが世の中の中で生きるというのを学ぶすばらしい機会だと思いますから、インターンシップに限らず、天王寺区においては、子どもが社会の中で生きる力を養う、その教育機会というものを潤沢に備えていきたいなというふうに考えております。

○飛田委員

受け入れる側の考えからすると、例えば工場とか、現場とかそういうことを考えると、今の安衛法なんかを見てると、子どもが来て、労災みたいなことが起こったときに本当にどうするのかというのは、すごく不安になると思う。その辺の費用も含めて、企業をお願いしますと言われてもすごく怖いかわからないし、この間印刷でも、がんになるみたいな話があって、今は大丈夫かもわからないけど、10年立ったときに何かなるかもわからないというときに、子どもを呼んだときに企業としてはやっぱりどうするのと後で言われたら怖いというのがあるので、そこがすごく私は受け入れる側とすると、特に現場なんかで小学校の見学なんかでも、すごく気を使うわけです。絶対危ないところへは行けないようにしてしまうとか。なので、それで1カ月とか1年間とかそういう中学生とかがいた場合に、見る人をずっとつけておくとか、そういう費用というのもやっぱりかかるのかなと。それを企業にお願いと言ってしまっ、こんな時期なので、1年目はできるかもわからないけど、やっぱり景気が悪くなったからできませんでしたということが起こってもまずいので、それはそれなりにやっぱ

り、区から幾らか補助なり何なり出ないとできないかなという、実際に受け入れてくれと言われたら、そうかなという気がします。

○水谷区長

これは業種によるところも大きいでしょうね。やっぱりその危険手当が従業員に支給されるようなところとかに、中高生をそのまま受け入れさせることが可能なのかといったら、やっぱりそういった事例はなかなか全国的にも見ないし、

○飛田委員

例えば、それ危険じゃないと言っても、通勤というのは労災にはなってしまうので、幾らこういうものは違うよと言ってしまえばそうなんです。

○水谷区長

それを常にやってる東京都の例もありますからね。企業と学校の校長先生と、あるいは利用者と3人で話をして、そこら辺の危険負担をどうするかとかいうのも、ちゃんと協定を結んだ上で受け入れてもらうというプロセスを既にとってるところもありますから、そういった先例をちゃんと学ぶことでしょうね。関係者からちゃんとヒアリングをした上で、じゃあ、この企業だったら確実にご本人もちゃんと了解してるから、受け入れができますということを1個1個詰めていくことでしょうね。もちろんやっぱりこれ、人様の子どもの命を預かる部分もございますから、これはもう徹底してやらないといけないなというふうに思います。

○田中（英俊）議長

次、三木さん手挙がってるので振りますけれども、その前に私から一言。

放課後、先ほど話があったんですけども、放課後に自分の学校の生徒で行く場合は、付き添いをつけないといけないですよ。それから、交通費をどうするかとか、さまざまな問題も出てきますので、善意でやるといっても、そのままやれるわけじゃなくて、親はその間どういう責任をとってくれるんだと、あるいは学業のおくれに対してどういう責任をとってくれるんだとか、募集した段階でそういうクレームもモンスター

ーペアレントとかヘリコプターペアレントもいますから、そういうことも踏まえて保護者の理解と学校の理解と……

○水谷区長

そういうのを恐れてたら、多分こういうことはできないです。

○田中（英俊）議長

そういうことをある程度踏まえて、本当にやる気になったら慎重に真剣に対応していかないと、言葉だけで終わる可能性があるということを申し上げます。

どうぞ三木さん。

○三木委員

大丈夫です。

○田中（英俊）議長

いいの？はいどうぞ。

○渋谷委員

きっと、このテーマは人材の育成という面で、そういう視点で見てもすけれども、逆に受け入れ企業さんにとってのメリットもやはりないと成立しないのかなというふうに感じてます。企業さんにとってのメリットというと、こういった面を。

○水谷区長

完全にこれはC S Rですよ。企業の社会的責任。

○渋谷委員

済みません、片仮名じゃなくて日本語をお願いします。

○水谷区長

ごめんなさい。企業も、例えば近年、清掃活動とか、営利活動とはちょっと異なる取組をすることで、自分たちの価値をP Rするという取組を進めてるところも多なっております。特に大手企業、ベンチャー企業を中心に、こういった傾向というものは広まってきております。また、そういった企業を中心に投資しようというようなソ

ーシャル・インベストメント・ファンドと、これも横文字なんですけども、社会投資ファンドみたいなものもございますから、企業の側にもこういう一見そういう利潤追求とは逆行するような取組にちょっと手を出してみようというインセンティブがあるのもこれは事実です。だからそれを、まさにどういう形で巻き込んでいくかと、実際そういうPR業界出身の内本委員、今日は来られてないですけども、そういった方も身近におられるので、実際そういうお知恵をおかりしながら、まさにこれは巻き込んでいく話かなというふうに思っております。

○渋谷委員

ありがとうございます。

○原田（久仁彦）委員

実は私が運営してる会社なんですけども、リサイクル工場を一部運営してまして、よく社会見学ということで、学習ということで、子どもさんが見えられるんです。どうしても正直言いますと、市役所さんの方から依頼をされるので、断ることはしないんですけども、必ずルールを決めてるんです。というのがどうしても現場に出てもらうというのは、先ほど飛田さんがおっしゃられたように、何があるかわからないんです。ちょっと床面が濡れてて滑って頭を打つとかいうこともありますし、必ずもう機械のそばには近づかないでくれというようなこと、これ実はもうマンツーマンに近いぐらい社員を張りつけて案内をさせてもらうということになってるんで、我々の工場の場合はちょっと特殊なんですけども、先ほど言われてましたように、企業のメリット云々というのは度外視してCSR、社会的貢献でいいんですけども、やっぱりその協力してくれる企業さんをいかに上手に見つけるのかというようなほうが難しいのかなと。当然先ほど、議長がおっしゃられたように子どもさんを預かるというか、時間外に出すというところ、だから目標は非常に高いんですけど、我々はしょっちゅう社会見学を受け入れてるので、そこら辺はものすごくびくびくしながら受けてるんです。

○水谷区長

実際、今企業ヒアリングとかも随時やってますけれども、色よい返事をいただいとるところもございますし、ここはそんな難しい、難しいと言って決めてかかるよりも、ある程度打ち手はいろいろあるのかなというイメージで現状を捉えています。基本的にやっぱり会社側としては、やっぱり何か起きたときのリスクを考えてしまうのはもちろんそうだと思いますけども、制度としてやっぱり利用者がちゃんとある程度自己責任で参加していただくという形が望ましいんじゃないかなというふうに思います。それは間接責任という形で行政も負わないといけない部分はあると思いますけども、例えばスポーツ少年団みたいところでラグビーをやりますと、ラグビーやってて、実際頭を打って、記憶障がいになった人とかも僕の周りにいますけれども、だからと言って、学校側の施設を利用してたからって学校側を訴えるかと、スポーツ少年団の指導員を訴えるかといったら、そういうケースというのは、もちろん必ずないとは言いませんけれども、自分の周りでも見たかといったら、実際そうは見えないのが現実でございます。それはなぜかと言ったら、やっぱり利用者がそういうリスクがあることを感受して、なおもラグビーをやってみたいということで入ってるわけですから、やっぱりそこら辺は、ちゃんと利用者側にこういう可能性もあるよということをアナウンスした上で、理解してもらった上でちゃんと参加してもらおうと。実際にそこでちょっと二の足踏んでしまうような状況があったら、場合によってはこれは参加しないほうがいいかもしれないですよとちゃんと促すと。そういうのはやっぱりちゃんと整えておかないといけないかなというふうに思います。

○三木委員

今の水谷区長のお話なんですけれども、自分の子を周りの経験というのもすごく大事だと思うんですけれども、実際、私今子どもを持つ身として、もちろん自己責任という考え方は私、大賛成なんです。ただ、やっぱり意図しないところで相手がいることなので、自分が気をつけていても突然わっと走ってきた子どもたちがぶつかって何かけがをしたというような場合に、先日うちの学校でもあったんですけれども、やっ

ぱりその子どもでいろんなミスであったりとか、現場でいろんな事故があったときにやっぱりそこで保険に加入してるかというような話になったんです。なので、そこでせっかく善意でインターンシップを受け入れてくれてる企業さんにご迷惑がかかるような形は避けたほうが、そういった形を最初から想定しておいてというのは大事なのかなと思うんですけど。

○水谷区長

そこはやっぱり天王寺区役所150人、これは優秀な職員ですからもう僕、太鼓判を押します、本当に。ですからそういうところでやっぱりきっちりと詰めてもらって、ちゃんとやっぱり万が一のことが起きても、ちゃんと対処できるような制度にしないといけないというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

2つ目でもう45分かかってる。このテーマについては河村さんで最後にさせてもらいましょうか。

○河村委員

今、いろいろ聞いてたんですけども、デメリットもいろいろあると思うんですけど、メリットのほうも結構あると思うんです。職業体験をしてもらって、次の担い手になっていってもらうような、例えば美容師とか理容師とかのところに、理容室に行って、職業体験して、そういう職業について見たいなっていう次の担い手を探してもらうのも一番いいし、うちの子どももこの前、職業体験で工場見学ですかね、桃陽の地区のお菓子工場を見に行って、いつもお菓子をもらってくるんです。そのお菓子がまたおいしくて、次また買いに行こうという、僕ら親の立場になっても、子どもがもらったものを食べてみて、おいしかったからもう1回食べに行こうとかなるので、次のメリットもいろいろあると思うんです。企業ばかりじゃなく、例えばその祭りで一つの店を出店させてみるとか、そういうのも新しく考えていってもおもしろいかなと思います。

以上です。

○水谷区長

全く同感です。

○田中（英俊）議長

まだ意見がある方がいますけども、また、どうしてもこれ言いたいというのがありましたら、手を挙げて戻って意見いただいても結構ですから。

次の高齢者の問題と、それからその次の災害対策というのが、安全安心の区づくりを進める上で非常に重要なテーマだと思いますけれども、一緒にやるわけにはいかないでしょうから、順番に行きましょうか、これも。

○水谷区長

重なる部分があるんですけども、じゃあ、高齢者地域福祉の強化というところからご説明します。

高齢者の数でいうと、天王寺区は相対的に少ない区で、割合で見ても少ない区で、実際そんなに一見すれば高齢者福祉の課題というのはないんじゃないかということをも他の自治体の関係者と話してても言われるところなんです、ある数字に着目すると一つのことになってきて、65歳以上高齢者の4割が独居の方というふうになっております。NHKでも数年前、無縁社会という特集が組まれたことがありますが、実際働いてるときはいいけれども、働けなくなって、おひとりになって、社会からも孤立した中で、亡くなってしまうという、非常に凄惨なケースも出てきておることに着目して、なるべくそういう孤立した状況の中で、例えば持病が悪化していたりとか、体が動けなくなっていたりするお年寄りの方がいないかどうかを早期に発見して、ちゃんとしかるべき機関につなげるような体制を整えてまいりたいということで、戦略1の独居高齢者等見守りサポーターという制度を検討しております。これは、とにかくマンパワーが物を言う世界だと思います。天王寺区内9地域ありますけれども、もう常時おひとり暮らしのお年寄りのところを訪ねて、異変がないかどうかを、毎日

毎日訪ねたら今度はプライバシーの問題にこれ抵触しますから、プライバシーを害しない範囲でちゃんとチェックして、ちゃんとお年寄りとコミュニケーションをとって、お年寄りが社会とつながりをちゃんと維持できるような体制をつくるということを取り組みたいというふうに思ってます。

これは、そこに近隣の大学生、地域の高校生とか書いてますけれども、大学で言うと医療福祉系の大学、高校で言うと高校のボランティア部とか、実際こういったボランティアを数十名規模でちゃんとプールして、もちろんこれは若い人材ですからちゃんと顧問の先生にその生徒の管理というものをお願いしようということで今、準備を進めております。実際、そういうプールしたボランティアを統括して、実際じゃあ、あなたこの地域、ここを回ってねっていうのをリードしていくボランティアリーダーみたいのをこれは有償で各地域に数名という形で置こうというふうに思っております。さらに、その最上段で、全体の管理をする福祉の専門家を非常勤職員みたいな形で2人ほど区役所に配置したいなというふうに今、制度設計しておるところでございます。ですから、ちゃんとマンパワーだけじゃなくて、一番トップには例えば社会福祉士みたいな専門家がいて、全体の進捗管理を図るといような、質の面でも担保した上で、この見守りサポーターというのを進めてまいりたいと思います。

それから戦略2なんですが、これは福祉現場ニーズの集約ということで、結構その介護とかそういう社会福祉関連の事業者さんが、なかなか行政、許認可権をこれは持ってますから、物を言いづらい雰囲気というのが意外とあるんです。例えば介護認定なんかに関しても、今までこれは役所でやってたのが、この春から介護認定事務センターという形で、民活、民間活用されたわけでございますけれども、それに伴ってちょっと今まで、1カ月ほどで介護認定がおりていたのが40日とかちょっと遅延するという状況が散見されました。これなんかについても、なかなか事業者さんが声を上げないから、そういう事態が起きているということをセンター側も行政側も認識できない状況があったわけですが、これを例えば事業者さんに定期的に匿名アンケート

トとか、目安箱みたいなのを設置して集約するとか、そういう措置を通じて早目にこういう福祉現場で問題が生じたときに、問題を早期発見して対応できる、そういう路線をつくってまいりたいなというふうに考えております。

以上でございます。

○田中（英俊）議長

はい、三木さん。

○三木委員

これ、私はホームページのほうで拝見したんですけれども、とてもいい案だと思います。うちは3世帯同居してましたし、すごくそういった介護とか身近に見てたんですけれども、遠縁にその独居高齢で夫婦でやられてる方がいらっしゃって、今年の夏に久しぶりに行きましたら、介護認定も受けていない、痴呆も始まっている、体も動かない、本当にもうそのままいつどこかで倒れて孤独死してしまってもわからないような状況になっていたんで、こういうふうにボランティアなり、有償の方なりでチームを組んで回られるというのはすごくいいと思います。

○水谷区長

ありがとうございます。やっぱりボランティアをどうやって集めてくるかというのがポイントだと思うんですけど、今までやっぱり行政ボランティア募集しますって、一人一人が手を挙げてくるのを待ってたんですけど、これだとなかなか集めきれない部分もございますから、例えば山ごとにアプローチするのが得策かなというふうに思ってます。例えば、ある高校のボランティア部だったらそこに20名の定員がいます。ある大学の医療系のゼミだったら30人います。その山ごとにアプローチして、その山とちゃんとパートナーシップを組んで、そのボランティアのプールの中に入ってもらいたいな、ある程度のマンパワーとして規模を整えていくということを主眼に置いて進めたいなというふうに考えております。

○酒井委員

よろしいですか。すごくいいんですけども、ここのは高齢者だけですか。抱えております障がい者とか、難病の方に対する施策のほうはどういうふうにお考えでしょうか。

○水谷区長

済みません。全くおっしゃるとおりだと思います。高齢者の4割が独居というところに着目して、この見守りサポーターを設けましたけども、別にこの見守りが必要なのは、独居の高齢者に限らないというふうに思います。もちろん難病で大変な方も対象になりますし、障がいのある方も対象になると思います。要するになかなかやっぱり日常生活において、社会とのつながりという面で、課題を抱えがちな層に確実にこの見守りサポーターを届けるという趣旨で、これは将来ビジョンのほうもちょっと文言を修正させていただきたいというふうに思います。

○田中（英俊）議長

はい、越村さん。

○越村委員

見守りサポーターなんですけども、私もずっと仕事でそういう関係をしてきましたので、念願というか、私もすごいそういうのは必要なんだろうなと思ってたんですけども、

○水谷区長

専門家からの意見、怖いですね。

○越村委員

いえいえ、今まで各地域のネットワーク委員会ではこういう役割を担っていたと思うんですけど、当然その辺ともリンクさせられるんですよ。確認をしときたい。

○水谷区長

もちろん、やっぱりネットワーク推進員については、今年度全市的に廃止という方針になっておりますけれども、やっぱり今までももちろんその地域福祉に携わってこら

れた方の蓄積というものを活用して、さらにそれを強化する形で再構築というのが、この将来ビジョンを示した趣旨かなというふうに思います。ネットワーク推進員についても、各地域に1人というふうな形で配置されておりまして、やっぱりマンパワーとしてももう少し強化したほうがいいのかなと、そのためにはやっぱりボランティアをどうやってプールさせて、そこと専門のスタッフとの連携をどう図るかとか、そこら辺をもっと注力したほうがいいんじゃないかなということで、今回ご提案をさせていただきました。

○越村委員

今まで仕事をしていた中で、やっぱり基本は後にありますけど、災害時のとき、やっぱりご近所のつながりというのが、ぽっとよそから来たボランティアの人というのはやっぱり、ただぽっと来たボランティアさんの言うことが聞けるときもあるので、高齢者の方が。地域の人から言われると嫌やけど、高校生の子が来てくれたらとかいうのもあるので、うまくかみ合わせてされるとすごく効果的になるなと思います。

○水谷区長

ざっくりしたイメージで言うと、一番下のこのマンパワーになるボランティアの部分は、これは区内在住者であろうがなかろうが、あまり問わない部分だと思うんです。その上に、各地域を統括するようなボランティアリーダーみたいな人がいて、この人たちはやっぱり区内在住者、しかもやっぱり地域に深く入り込んだ人たちというのが望ましいでしょうね。全体を管理する人というのは、これは多分、ずっと福祉に取り組まれてて、痛感されてるところだと思いますけど、専門家がやっぱり御しておかないとだめだと思います。今までやっぱりそこが欠けてた視点だと思うので、これはもう絶対、専門家のコントロールのもとやるということで徹底したいと思います。

○神崎委員

質問がダブるんですけども、この見守りサポーターの場合はボランティアの募集にしても、先ほどと議題が戻りますけども、未来を担う人材の育成においても、もっと

町内会の活躍の場というのはあると思うんです。もちろんこの独居老人の見守りにしても、町内会が活躍すればほぼカバーできるでしょうし、しかも今の現状を何をいじることもなくそのまますんなりいくだろうと。人材にしましても、町内会のおじいちゃん、おばあちゃんの先輩方の話をもっとコミュニケーション力をつければ、小学生、中学生のあたりの学生たちが興味を抱くような職業の話なんかも聞かれるだろうと、もっと町内会が活躍するような発想で、足りない部分はボランティアとか、そういう視点のほうがり天王寺区としてはいいのかなと思うんですが。

○水谷区長

でも、神崎さん、町会というのは今までやっぱり行政はおんぶにだっこで来過ぎてきた経緯があるわけです。だからいろいろと例えば、充て職なんかもあって、いろんな団体の長をやってくださいと言って、いろんな事務負担も含めてお願いしてきた経緯がございます。今は町会が抱える課題というのもすごい大きいわけです。例えば天王寺区内はマンションいっぱいこれ建ってきてますから、そことのつながりをどうやって形成しようかというのは、これはただでさえ大変なことですよ。だからこういうプログラムをやるからそのマンションを駆けずり回って、こういうのを周知させるのを町会の人たちに単純に負わせるのもそう容易ではないことですし、また、もちろんこの独居の見回りとかも、もちろんこれ町会の人もちろんそうだし、民生委員さんとかも今、やっていただいているわけですが、それだけでも足りてない現状というのがあるわけですね。だから、そこをもう皆さんのそこは自主努力ですよってぽんと投げてしまうんじゃないくて、やっぱり生命安心にかかわることですから、ちゃんと行政でちゃんと専門家の制御のもとやらせていただくと、ここだけは完全に行政責任でやらせてもらうというのを、ちゃんとつくったほうが、地域の柔軟性とか、自由度とかもある程度ここが担保される形で行くのではないかなというふうに考えております。

○神崎委員

それには異論はないんですけども、例えば今おっしゃった天王寺区の昔ながらの町

並みがあるところ、マンションが建ち並んでるところ、それは問題は一緒とは言え、多分解決方法が違うと思うんですけど、それはやっぱり別個に考えるべきだと思います。昔ながらの町並みが残ってるところはやっぱり町内会をもっと最大限活かすべきだろうと。マンションが建ち並ぶところの独居老人がいらっしゃるところは、これはまた別の視点で考えるべきだろうと思います。それはおっしゃるとおりわかるんですけどもね。

○水谷区長

そこは濃淡つけるということだと思いますけれども、大阪市内でこれほどマンション建設が区内押しなべて進んでる地域もなかなかないですから。町会の方々がそれ、例えば新規加入者をどうやってふやすかとかでやっぱり努力されてるのは、これはもう本当に重々承知しておるわけですけど、そこでさらに新たにこれもやって、あれもやってというのが申し上げることがなかなか私としてもそれはやりたくないなと、もう十分やっていただいているから、それでさらに何か新しい仕事というのが言いづらいというのはあります。ですので、もちろんそれはご協力いただけるのであれば、それはご協力を募るということもやらせていただきたいと思いますけれども、基本的にやっぱり命とか後に述べる災害対策の部分については、せっかくみんなから強制的に税金を集めてやってるわけですから、行政でちゃんと責任とれよという観点で私はやらせていただきたいなというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

次、河村さんの手が挙がってますけど、その前に私から。

新しく例えば大江の場合は、大江ふれあい協議会というのができまして、大江ふれあい協議会3名の幹部の方とこの前お話ししたんですけれども、安全、安心まちづくりで最も機能する協議会にしていきたいんだというふうにおっしゃってまして、とすると、ここの安全、安心と高齢者の地域福祉と言いますか、それについて新しくできつつある協議会はどういうふうに関係してくるのかなと。それは町会とは違いますよ

ね。

○水谷区長

ええもちろん、町会ももちろん地域活動協議会という、町会を含めて各種団体が連携する地域活動の母体なわけですが、地域活動でやるべき領域と行政が政策としてやるべき領域のこの分別というのもこれも大切でしょうね。私は今、神崎さんのご発言を受けて話した趣旨というのは、何でもかんでも、この災害対策とか生命安心にかかわるような領域を地域活動に押しつけるのは、これはすごい不誠実だという考えに立ってのことです。ですので、やっぱりその安心安全に係ることも地域活動でももちろん、大江もそうやって積極的に考えてらっしゃるというのは承知してるつもりなんですけども、やっていただくのはもちろん、ぜひお願いしたいんですけども、ただ、どうしても地域活動としては予算がかかり過ぎるなとか、地域活動としてはやっぱりマンパワーが足りないなとかいう領域があるわけじゃないですか。例えば備蓄倉庫をどう各地域に配置していくかとか、そういう避難場所をどう確保していくかとか、そういうことについてはちゃんと行政で責任を持ってやらせていただくという趣旨で、そこはもう完全に各協議会と相談、連携しながら、行政でやるべきこと、そうでないことの区切りをつけていかないといけないなというふうに思っております。

○河村委員

この独居見守りサポーターだけじゃ賄いきれないのはこれ確かやと思うんです。例えば、うちでもきのうあったんですけど、ポストの中に手紙とかいろいろいっぱいたまっていると。あの人、隣の人どないなってるのやろって、ただ、この後どうするかなんですけど、見守りサポーターの人に連絡する。その連絡先がわからんと、区長のいじめダイヤルみたいなものが、区内に1カ所でもどこかにあれば、そこからサポーターの方に連絡していただいて、そういうシステムがちゃんと構築されたらもっと多分こういうのが活用されてきて、いいと思うんです。一番、皆さん思うのは、ただ入院してるだけかなとか、中で倒れてるとはあまり思わないんですよ。中で倒れてるの

かも、介護で認定受けてちゃんと介護を受けてるのかもわかれへんと。どこが一番探してもらえるかといったら、区役所が介護認定を受けてるか、受けてないか、安否確認してもらいやすいところなんです。だから、まずこういう何とかダイヤル、独居対策ダイヤルみたいなものをつくっていただいて、そこが一括電話の受け答えしてもらって、その後、下にちゃんと連絡ができるようなものができたら一番いいんじゃないですかね。

以上です。

○水谷区長

一括窓口は本当必要でしょうね。やっぱり複雑にし過ぎると利用者が使いづらくなるというのは、もう福祉とかでやっぱりこういうのはあってはならないことだと思うので、今おっしゃったような趣旨のことというのは、盛り込まないといけないと思います。

○出村委員

先ほど言われております、有償ネットワーク推進員、この制度も20年ほど前から社会福祉から始まったわけでございます。先ほどお聞きしたように、来年3月で一応ストップすると。しかし、今後やっぱりそういうノウハウとか、秘密のデータ、それはかなり20年ほどやってる推進員もたくさんおられますので、必ず次の設立する場合には、それそのものを必ず入れて、そういうノウハウとか、秘密事項の継承をさすということは大事かと思います。

○水谷区長

やっぱりこれまで培ってきたものを踏まえつつ、それだけでは足りなかったものをさらに追加するという、こういう方向性が大切だと思います。やはり経験というものはやはり踏まえないといけないです。加えて今回見守りサポーターで一つ価値があると思うものがやっぱり専門家の視点をちゃんと一番統御するところに入れると、これは社会福祉士とか、福祉の専門資格を持った人、これがその専門性と経験とがちゃん

と相まれば、よりよい形でのその地域の福祉につながっていくのではないかというふうに考えております。

○田中（英俊）議長

あと、このテーマにつきましては原田久仁彦委員から言っていただいて、まとめみたいな感じになるかもしれませんが、越村さんで次のテーマに行きたいと思います。

○原田（久仁彦）委員

一つちょっと違った観点から区長に提案させてもらいたいんですけども、ボランティアが集まりにくいとか、高校生とか言われてるんですけど、ものすごく冷たい言い方をさせてもらおうと、例えば区役所の150人の優秀な方が、有給のタイミングで年間2回ぐらいお手伝いいただくとか、もしくはその先ほど言った、企業の方々にCSRの一環として、例えば何人かずつ出してもらえませんか、こういうふうなことを考えられたらいかがなんでしょう。

○水谷区長

職員はかなりボランティアしてますよ。土日は、もう地域の行事とかイベントとかいっぱいありますから。僕も中に入って思いましたけども、今の時代、公務員であろうとなかろうとそんな土日もしっかりできる仕事なんてないですよ。それがいいことか悪いところかはともかくとして。だからやっぱり、もちろん空いた時間でそういうふうにやってもらうことは、職員もできますし、あるいは職員以外の企業の人とかも引き入れてやることはできるかもしれないですけども、一定規模であり、かつ恒常的な取組として続けていくという観点に立てば、ちゃんともうベタでかかわってくるようにしておかないと厳しいでしょうね。スポットスポットでそういう職員とかも入ってもいいと思いますけども、やっぱりベタで恒常的にやってもらう人をどこで確保するのかという観点で制度設計しないと難しいのかなというふうにも思っております。

○越村委員

まとめというほどじゃないんですけど、河村さんがさっき言ってはった件について

は、役所にダイヤルをつくるのもいいんですけども、本来もう既にあって、地域包括支援センターとかがそういう役割があるんですけど。

○河村委員

包括があるんですけど、そこがみんなわからないんですよね。

○越村委員

だからそこが問題で、そこをキチッとせっかく制度としてあって、予算もおろしているんで、そこがもっときちんと機能できるように、区役所としていろんなあと、社協もそうですけれども、きちっと役割分担をしながら、有機的に連携をとれるような形にしていかないと、今、ここにもここにもばらばらに、いろんなところが地域もやってる、みんなやってるんだけど、それがこううまく連携できてないので、さっき区長がおっしゃったように、やっぱり私も地域の力ってすごく強いんですけども、やっぱり行政が責任をとるべきところはあって、私たちもそういう河村さんがおっしゃったような相談を受けたら、わからないわけですよ、どこの誰でとか。やっぱりそこを踏み込めるのは権限がある役所だけなので、そこをうまくかみ合わせれるようなシステムをつくらないとだめだなというふうには思います。

○水谷区長

それはまさにおっしゃるとおりだと思います。

○田中（英俊）議長

これも含めて、それ以後災害対策とも関連してくると思いますので、またダブるところがあったらご意見をいただくとして、その点についてご説明願います。

○水谷区長

災害対策リテラシーの強化。また、片仮名でごめんなさいなんですけども、要は災害対策を考える上で、自助ですね。自分の自に助けると書いて、一人一人が災害が起きたときにどう対応するかと、あるいは災害が起きる前に日ごろから何を備えておけばいいのかということを確認しておくことが非常に重要と言われております。この点

をもっともっとみんなに伝えていくと、みんな一人一人災害への備えをちゃんと持ってもらおうということを促してまいりたいというふうに考えております。と言いますのも、やっぱり上町断層帯地震、天王寺区の下に上町断層帯があるというふうにされておりますが、これが地震が起きた場合、大阪市内でも第4番目に多い割合で建物被害も出ると言われておりますので、これに対する備えとして考えております。まず、戦略1として、区民の意識向上策の強化ということで、出前講座を強化するという方針を考えています。今まで区役所主催で防災ワークショップとか、いろいろやってきたわけですが、実際なかなか来ないわけです人が。見てみたら何回もやってたらリピーターさんで、もうあなた十分防災のことわかってるでしょっていう人ばかりが来てしまっていると、これじゃ、やっぱりいかんと思うんです。そうじゃなくて、実際、区民の側に飛び込んで行って、防災に必要な情報をコンパクトに伝えと。もうあれやこれやと言っても、もうみんな記憶できないと思うので、一番大切なことだけ伝えと。例えば、阪神大震災のときはやっぱり家具の下敷きになって亡くなった方が多いから、家具を固定しないといけないですよとか、あなたの一番近くの避難場所はどこですよという、そこに行くための道はこれですよと言って、もう教えてあげるとか、そういった重要部分だけ凝縮して伝えるということをやっていかないといけないと思います。これをする上で、今頑張ってもらってる、あなたの声をつなげ隊、このつなげ隊のメンバーにぜひ担ってもらいたいなというふうに思ってます。それから「災害対策まずはここから」というペーパーを全戸配布とあるんですが、実際私もこの8月に就任して、町会の関係者の方とかとお話しする中で、自助、自助いうけども、何から手をつけていいかわからないという方があまりにも多いことを痛感いたしました。そういう方々にどういうふうにしたら自助をできると思いますかといういろいろヒアリングしていったら、やっぱり冷蔵庫とかたんすとかに日ごろから貼って、災害対策に一番重要なのはこれですよと、こういう物を備蓄しといたほうがいいですよと、避難するときにこういうことを心がけたほうがいいですよというのを完全にA4、1枚物に

まとめたようなそういう物が欲しいと。これは非常に重要だと思いますので、これは全戸配布という形でやらせていただきたいと思います。

それから、ただ単純に防災イベントやりますと呼びかけただけだったら、さっきみたいなリピーターだけが来ると。広く参加者を募れないという状況もございますので、みんなにまず興味を持って来てもらえるような防災イベントを行ってまいりたいと思います。それがそこに書いてるような、例えば企業とか自衛隊とか、ちょっと変わったところと連携した防災イベントというふうに考えております。

それから、自助、自助いうけれども、なかなか自分で防災対策を徹底できる人たちばかりではないということで、先ほど福祉の部分でも述べましたが、独居の高齢者の方とか、障がいのある方とかのお宅を訪ねて、家具の下敷きにならないように固定をちゃんと業者と提携して、行政が責任を持ってやってあげたりとか、そういう制度を整えてまいりたいというふうに思っております。

それから、戦略3のところなんですけれども、今、天王寺区内でも収容避難場所の充実化を進めてきておりますが、ただ単純に避難場所の量をふやしていくだけではなくて、例えば東北の震災のときも避難場所で男女共同生活をするわけですから、女性のプライバシーとかが問題になったことを私も前のNHK記者のときに取材して、痛感しております。そういうことを踏まえて、例えば女性用避難スペースをどう確保するかとか、福祉の避難所をどう確保していくかとか、そういったことも進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○田中（英俊）議長

ありがとうございます。これは第1回目の議論のときにも、多少皆さんで意見を交換したテーマでもあります。あのときの議論はもうあったとしてほかに何か。はいどうぞ。

○飛田委員

いろんな震災があるときに、土建会社にいたので、そういう現場に行くことが多いんですけど、天王寺区の中で多分弱点と言われてる地域はあると思うんですよね。全部を助けるんじゃないくて、まず今、弱点になってるところを重点的に、例えば電柱をなくすとか、家具の固定を市のお金でやるとか、まず弱いところを先に潰していくというのがすごく大事じゃないかなと。最近できたマンションていうのは、多分放っておいても免震になってたり、耐震になってたりするので、簡単に壊れることはないと思うんですけど、やっぱりこの辺だと谷と言われてる地域というのは、地盤も弱いですし、水もそっちに流れるようになってますし、地震だけじゃなくて、水害も含めてその弱いところをまず、3年なり4年なりで潰していくというのが私は一番大事じゃないかなという気はするんです。

○水谷区長

おっしゃるとおりです。ソフト面を中心に書きましたけども、ハード面での都市環境の構築というふうになると、多分今おっしゃったような話だったら、その区の意向をちゃんと踏まえて行える部分だと思いますけども、全体の都市計画と言いますか、いわゆる市全体の広域行政との兼ね合いもこれは生じてくる話ですから、一朝一夕では解決できないという状況はあるんですけど、今、おっしゃったように天王寺区内においても、災害に弱い地域があるのは、これ事実でございますから、そういったところをちゃんと都市計画の部分でも、俎上にあげてもらえるように、これはもう確実に区から声を上げていかないといけないかなというふうに思っております。

○田中（創三郎）委員

ここで出前講座を強化するとかいうような話があって、区長からも。そこであなたの声をつなげ隊というのを、これ高齢者対策とかと防災・災害対策というのをリンクさせた考え方かなと思うんですけども、そこでそのあなたの声をつなげ隊というのは職員さんを中心にやってて、その方たちが高齢者対策プラス災害対策ということをかなり内容的には……

○水谷区長

いや、災害対策はまた別のチームです。

○田中（創三郎）委員

別のチーム。つなげ隊の中でも……

○水谷区長

独居見守りサポーターはつなげ隊とイコールではないです。

○田中（創三郎）委員

そうですね。違いますよね。独居見守りサポーターのほうというのは、ボランティアを中心にしたチームになってるわけですよね。これ、そこであなたの声をつなげ隊でそういった出前講座なり、家具固定とかのアドバイスをするのであれば、見守りサポーターのほう、ボランティアの人たちにもそういうことをやってもらうというふうにちょっと見守りサポーターさんたちのちょっとやってもらうことをちょっとふやすというか、そうやったほうが効率がいいのかなと思ったりするんですけど。

○水谷区長

ここは多分、両者連携するところは多いと思うんですけど、もちろんつなげ隊も訪問活動の中で、お年寄りのことを訪ねるときもありますし、そのとき異変に感じるものがあったら、独居見守りサポーターと連携して情報を共有するというのは、もちろん行政としても認識想定してますから、その両方で連携というのはありますけれども、ただ、見守りサポーターのボランティアの方とか、有償ボランティアとかスーパーバイザーの方というのは、基本的に福祉に専門特化してやっていただくということでやっていますし、実際にじゃあ何で特化してもらうかといったら、やっぱりそういう生命安心にかかわるところが非常に重要だから、ほか事はちょっとあえて捨象して、そこに特化してもらうという趣旨でやってもらってるわけです。実際、ほかの防災出前講座とかをやっている間にお年寄りが1人倒れたりとかして、そこで対応できなかったら、すごい生命にもかかわってくる話ですから、ある程度、見守りサポーターは僕は専業

でやってもらうというのが一番、多分ボランティアでやっていただく立場ですから、いろいろあれもこれもやってよと言ったら、混乱しちゃうから、専門で1本というふうにただしたほうが、実際に機能するのかなというふうに認識してます。

出前講座については、これはそういう意味でつなげ隊中心で、あるいはつなげ隊だけじゃなくて、うちの市民協働課の中にも防災担当の課長、課長代理チームがございますけれども、それを中心にやることも可能ですから、そこはもう連携してやっていくのがいいんじゃないかなと考えております。

○田中（創三郎）委員

つなげ隊のほうでもボランティアを使うということは、想定できますか？

○水谷区長

それは今、全く想定してなかったです。

○田中（創三郎）委員

18人じゃやっぱり負荷がすごいどんどん大きくなってくると思うんです。これから何やかんやって言ったら、やっぱりじゃあこれもつなげ隊にやってもらうとかいうふうに今後なっていくことも考えられるので、つなげ隊の充実というか、マンパワー的にも数をふやすということはやっぱり

○水谷区長

つなげ隊のメインの17人いるんですが、これは基本的にいわゆる天王寺区安心安全パトロールという、自転車とか車等で区内をパトロールして防犯を呼びかけたりとかする活動に従事してた方々なんです。その方々にただ区内を回るだけじゃなくて、その回る過程で、お一人お一人と話して、ご意見を集約するというのをやってくれというふうに言ってるから、基本的にその従来より負担が激増してるのかという状況は特段ないわけです。ただ、新しい仕事ですから、覚えるためにいろいろと大変さはあるわけですが、そういうことを鑑みても、今おっしゃったような状況というのは、差し迫った状況はないわけですが、ボランティアを絡ませるというのは、これは

一つの方向性として検討する価値はあるかもしれないです。僕の認識としてはこれ、行政が区政運営する上で、実際皆さんがどういうニーズを持ってるかと、今やってる施策事業についてどういう印象を持ってるかとかいうのを吸い上げて、それを区政に活かしていくという、この行政が責任を持って回すサイクルの中で位置づけてましたから、だったら区民の声集約もやっぱり行政マンがやるべきだろうということで考えてましたが、そこにボランティアが絡むとどういう回し方ができるんだろうというのが今、創三郎さんのご指摘を受けてちょっと検討する価値はあるのかなというふうに考えました。

○田中（英俊）議長

三木さんどうぞ。

○三木委員

私も同じようなことを思っていたんですが、同じようにボランティアで参加できないかなって。逆に言えば私もこういうのに参加がもしできるのであれば、先ほどのこのつなげ隊だけでなく、見守りサポーターもそうなんですけども、やっぱりボランティアというと、なかなか敷居が高いイメージがあるんですけど、もっと気軽にこういうことだったら手伝える、参加できるという人はもっと掘り下げていけばいるのかなというふうに思ってます。

○水谷区長

恥ずかしながら自分があんまりボランティアってやってこなかったタイプなんです。全くやってなかったかと言ったら、そこそこやってたなという気もするんですが、実際じゃあ、どういうボランティアだったら参加してもらえるかなとなったときに、何かやっぱりただただ過酷な労働を強いるようなボランティアじゃなくて、例えば若者が将来福祉に関する職に就きたいからちょっとでもこういうところで先に経験しておきたいとか、ただ単純に何か楽しそうだから、このイベントの準備をやってみたいとか、何かそういうインセンティブがないと難しいのかなという気があって、そこをち

ちゃんと明確化した上で、もちろんこのつなげ隊もボランティア導入とかというのは、これは検討価値があるのかなって今日、お二人の意見を聞いて、ちょっと思いもしました。

○越村委員

サポーターという名前はとてもいいなと思います。ボランティアというと、今区長がおっしゃったように構えるので、結構ちょっとこれだけはしてくれる人みたいに、サポーターという言葉のほうがなじみやすいん違うのかなと私は思います。

○三木委員

そうですね、確かに。

○神崎委員

A 4、1枚程度のペーパーを配付すると、これはもうできてあるんですか。

○水谷区長

これはこれから、でも素案的なのは、ベースになる資料はありますから、つくって、配るとなるまでにそう時間は。あれ全戸配布の区の広報紙に混ぜて配るんですよね。だから、早い段階で配られる状況はあります。

○田中（英俊）議長

全戸配布というのは、企業にも配りますか。

○水谷区長

基本的には、これは個人宅。

○田中（英俊）議長

この区内で仕事をしてるオフィスが非常に危険なんです。例えば、つい立て、区切りがロッカーで区切られてたりとか、地震が起きたらそれはけがのもとになります。ですから、企業の中でかなりの被害が出る可能性がありますから、区民だけじゃなくて、この区域の中の企業とか、学校みたいなところとかも、今の配った、自ら自己責任で整備していくというのは必要ですけども、私もある学校のチェックの責任者で、

ある学校を調べに行って、そのところは指摘させてもらいました。あるいは、廊下に物が置いてあって、いざ逃げようと思ったら逃げれないとか、そういうことも含めて、企業も対象にしていadakきたいと思います。

○水谷区長

おっしゃるとおりです本当に。そうですね。そこは絶対にやりましょう、それは。企業、団体ですよ。だから企業に限らず、人が昼間密集している施設にもちゃんと届ける。

○田中（英俊）議長

ほかにはいかがですか。実は、もう25分であと5分しかありませんで、戦略的なシティ・プロモーションというのは、これ1つでテーマになる可能性がありまして、最初の顔合わせのときに、この地域のイメージとか、売りとか、そういう議論をしたところとも関係してくるわけで、恐らくひょっとするとということですけど、田中さんがこれからテーマを、テーマというか、提案がございまして、そういった中で、もし皆さんが賛同して議論するとなれば、その一つの大きなテーマの一つになる可能性もあって、時間別途1時間半なりとって議論することではないかと思いますので、区長、いろいろ言いたいことはあろうかと思いますが、またの機会にさせていただいて。

○水谷区長

もちろんです。僕、そんなしゃべりじゃないですから。

○田中（英俊）議長

これは議長の特権ですけども、とりあえず区政、これ皆さんの意見を集約するにはちょっと議論しないといけないと思いますので、田中さんからお配りいただいた、区政戦略会議の議論に対する提案ということにつきまして、説明していただければと思います。

○田中（誠悟）委員

急な提案で済みません。一応、そこに載ってる有志の7人で、大体の素案をつくら

せていただきました。まず、初めに戦略会議の議論に求められていることというのが、3点あると思います。そこに書いてあるとおり、1つ目は多くの意見を反映させて、公平性を担保するというのと、次はスピードアップで、限られた任期の中で、できるだけ多くの課題に取り組むということが重要であります。それと3つ目の課題として、上の2つを担保しながら、深い議論を行っていくということがすごく重要だと思います。現在の戦略会議の課題として何があるんだということになると、次の3つがあると思います。時間的な制限と、合同会議と公平な議論の場というものがなかなかまだつくりえていないのかなというところがあると思います。

1つ目の課題に対する対策はということなんですが、作業部会、これは今からお話をさせていただくんですが、7人ぐらいの部会に分けて、大きく3つぐらいに分けて、人数をある程度制限することによって、逆に時間を効率的に使おうということです。それと、あとですね、公平な議論の場というのを何とかつくりえないかと、これは当然20人ぐらい全員で参加できる場が一番ベストなんですが、そうとなかなかこうやって会議で集まるとかしきできなくなるといいますので、メール等であればやはり偏りが生じる可能性がある。使えるツールによって、かなり偏りが生じると思いますので、これも逆に少人数に区切ることによって、ある程度担保できるんじゃないかというふうに思ってます。例えばメールが使えない方には郵便、郵便は無理でしょうけど、電話とかファクスを使えばある程度タイムリーに議論がかみ合ってくるんじゃないかというふうに考えます。あと、区役所職員の方の前回、これお話に出てましたが、説明を簡略化すること。あと、もちろんですが、一人一人の情報収集がなされれば、時間が短縮できるんじゃないかというふうに考えてます。

次、2番目の合同会議に対する対策なんですが、前回の合同会議でもやはり、かなり人数がこれよりふえますので、なかなか意見の集約が難しいなというふうに思いました。今既に、残り10回ぐらいの会議しかないうちの半分が合同会議だというふうに考えると、あと5回しか実質的な会議がないというふうな状態になるますので、で

できれば合同会議は、代表がある程度の案を持って行って、そのべたな状態からつくり上げるというよりは、ある程度前も南委員が同じようなことをおっしゃられたと思うんですが、ある程度その下準備をした後で、代表者が出るというような形で、戦略会議は基本的に月に1回、それと合同会議には代表者がきっちりと出て、対応していくというような形をとれば、会議の10回が丸々議論に使えますから、すごく時間的には有利に立てるのかなというふうに思います。

3番目の公平な議論の場に対する対策ということなんですが、これは今もお話ししたとおりで、全員でディスカッションできる場がつくれれば最高だとは思いますが、なかなか難しければ少人数で、ある程度きっちりとした議論ができるツールを確立するということが重要かなというふうに思ってます。

次ですね、作業部会の意義についてお話させていただきます。作業部会は、戦略委員を7人程度のグループにチーム分けしたものです。大体の形が、この別紙のほうに出てますので、これを見ながら行っていただくといいかと思いますが、少人数のチームに分けることで効率的なディスカッションが行えるとともに、同時並行で数個の議題に取り組むことができるので、スピードアップを図ることができるのかなというふうに考えてます。また、この作業部会は基本的には立候補制を想定しておりますので、適材適所で自分の得意分野でお話をしていただくことができますので、そういう意味でも、すごく効率的にお話が進めるんじゃないかというふうに思ってます。

次、裏に行っていただきます。この裏にお示しした、4番にお示しした作業部会の分け方なんですが、これは①から⑥に関しては、区長がお出しされてる天王寺区2.0の代表的な政策を書いております。その政策を方向性が近いものを集めて、この3つ、教育・子育て・国際交流という議題と、防犯・防災・地域社会という議題と、シティ・プロモーションという大きな3つに分けて、この3つに委員がそれぞれ立候補していただいて、グループ分けをしてはいかがかというふうに考えてます。

今度は戦略会議の位置づけは、じゃあどうなるのかということだと思んですが、

戦略会議においては、作業部会がそれぞれ1カ月間話し合った議題をプレゼンテーションしていただくんです。僕が今、させていただいてるような形でいいと思いますが、プレゼンテーションをしていただいて、それによってある程度、議論すべき点が絞られてくると思いますので、それで時間的にも効率的にできるんじゃないかというふうに考えてます。また、少人数では政策にやはり偏りが生じる可能性が十分に想定されますので、この修正のチェック機構として、戦略会議が重要になってくるというふうに思ってます。また、このチェック機構でしっかりとチェックすることによって、議論の縦割り等も防ぐ効果もあるのかなというふうに考えます。

次、6番の戦略会議の目標なんですが、これはこの提案よりはちょっと大きなお話になるので、ちょっと不つり合いかもしれませんが、やはり戦略会議の最終的な目標としては、今の決められない政治というところを打破するためにも、最終的にはやはり文言として、きっちりとした文章を区政戦略会議の総意として、ある程度多数決で出していったほうがいいんじゃないかと、それによって区長にもしっかりとその政策の実行を促していくということが重要かなというふうに考えております。それに当たって、じゃあ、何が要求されるかということなんですが、当然私よりもすごくご見識の高い方がおられるので、これは釈迦に説法なんですが、やはり他人の意見の尊重とそれと妥協点を見出していく努力ということと、あと大同小異、これは2番ともよくつながってると思うんですが、大同小異。あと、職員さんの協力というこの4つが非常に重要であるというふうに考えてます。この4つを乗り越えることで、やはり玉虫色じゃなくて、しっかりとした提言を出していけるようになるんじゃないかということとで考えております。

最後にちょっと済みません、おまけの提案をつけちゃったんですが。今日はもう実行していただいていることが結構あるんですが、筆記用具ですね、毎回ご用意いただいてたんですが、これは不必要かなと。経費の節減ということも考えると、これはやめたほうがいいかというふうに考えてます。そして、有識者会議の委員様に対する、事

前説明に関しても、我々もメール等でしていただいて、なかなかそんなに不便はないのかなという気がしますので、可能であれば、可能な委員もおられると思いますので、可能であればメールとかファクスとか、そのあたり、郵便とかを使っていただくと、職員の給与という経費も節減できるのかというふうに考えてます。あと、これは区長にお伺いすると、区役所の今出ておられる管理職の方の残業代は実は出ていないということをお聞きしたんですが、これに関しても我々がボランティアで来てる以上、なかなか経費を節減しましょうかという話の中で、会議をふやせばふやすほど、経費が係るということでは若干問題があるのかなと。ただ、それはもちろん、給与のこともあると思うので、なかなか一概には言えないんですが、そこら辺の妥協点を区役所等で考えていただければ、全てカットしてくれということではなくて、お互いが納得できる妥協点があれば、ここも経費節減につながるのかなというふうに思ってます。

あと、地域振興券というものを発行していただければ、おもしろいかなというふうに考えてます。これは単なる提案です。やはり、こうやってボランティアのところに区役所の職員が出てきたときに、そういう部分は例えば地域振興券等で発行できれば、区民の努力は逆に区に対して還元できると思うんです。そういうふうに考えると、ボランティアのある一部に使っていくというのも一つでしょうし、いろんな形で使っていく可能性が出てきておもしろいかなと思いますので、地域振興券も一つ考えていただければなというふうに思ってたんですが。

以上です。ありがとうございました。

○田中（英俊）議長

ちょっと区長からの意見を聞きたいと思うんですが、その前に、今田中さんから有識者会議の委員に対する事前説明というのがあったんですけども、有識者会議とこの戦略会議の関係がまだ皆さん、しっくりというか、きっちりというか、理解してないところもあるんじゃないか、十分に情報が伝わってないところもあるんじゃないかと思います。例えば、今日議論してる中でも、それは取り入れますとか、その考え方に

についてはこれからちょっと詰めますとかいうことで、我々が提案していることについて、区長として責任を持ってそれらの対応を言ってるわけで、我々の考え方が有識者会議で認められる、認めないということではなくて、こんなことを議論してるというのは、有識者会議に伝えるにしろ、これぐらいの意見を我々がぶつけていくと。ぶつけるに当たって、この場で初めて考えて言うんじゃないくて、テーマがあれば、その分科会的なところで1カ月ぐらいみんなでもんで、議論を深めて参加しましょうということであって、その議論の結果を有識者会議に伝えるのはいいんですけども、合同会議でまた意見を交換するという、そういう位置づけではないのではないかと、私は理解してたんですけど、そここのところも含めて、今のご提案に対して、区長、どういうふうにお考えになるのか。

○水谷区長

合同会議っていうのは、今までの区政会議なんです。年3回程度ですね。大体予算の中間振り返りとか、年度末のチェック、そのチェックした内容を翌年に活かすという、そういう機会として、これまで区政会議というのは機能してたわけです。それに今まで区政会議の委員さん、今現在の有識者会議の委員さんたちに、これはもう行政のほうからお願いする形でご協力いただいていたという経緯があります。やっぱり予算というものについては、これは区における一番これは重要な規範でございますから、これについてチェックするのはその有識者会議、戦略会議、両方一堂に会した上で、ご議論いただくというのが一番ベターなんではないかなというふうに思っています。それ以外に、有識者会議、戦略会議、それぞれの会議体でございますから、それぞれの会議体で、例えばこういう議論をやりたいと、こういう頻度で議論をやりたいとか、それぞれのご意向がありますから、これは会としての意向です。戦略会議は皆さんのコンセンサスで月1回やりたいというふうに決まりましたから、その意向を受けて、行政としてもそういう意向に沿った会議開催ができるようにご協力させていただくと。それは個別いろいろテーマを話し合った内容というのは、これまでも、さまざまな機

会を通じて、こういう議事を取り扱いました、こういう議論がありましたということ
を公開させていただいております。その公開の度合というものをさらに高めていき
たいなと。やっぱり公開する前にあたっては、有識者会議さんのほうにも、ちゃんと情
報を提供させていただいて、こういう議論があって、委員さんがこういう意見を言っ
て、それに対して区長がこう言いましたというのがわかるような形で情報提供をさせ
ていただく、それを受けて有識者会議の委員さんからまたご意見が来たら、それも受
けますし、あるいはまた会議をやりたいということがあれば、それをサポートさせて
いただくにやぶさかではないという、そういう体制を組ませていただけたらなという
ふうに思っております。基本的にはこの有識者会議とやっぱり区政戦略会議、これは
立場はフラットでございますから、有識者会議はそれぞれの団体の代表という立場で
皆さん参画していただけてるわけですから、その団体のご意見に沿った発言をしてい
ただけたらいいと思いますし、それではすくい切れない区民のニーズと言いますか、
それをまさに皆さんが発言していただけたら、それを合い混ぜて、区政に活かしてい
くという流れがつくっていただけるんじゃないかなというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

それで、田中さんに質問ですけど、この分科会、作業部会がワークするときは、職
員の負担にもなるようなイメージを描いてるんですけど、具体的にどういう形を想定
されてるんですか。

○田中（誠悟）委員

作業部会は、基本的に作業部会の中で、問題を議論していきます。ただ、やはり区
役所に直接聞かないとわからないこともありますし、そのあたりに関しては、区長に
お願いして、その部署の方を呼んで、例えば区役所の中で時間で決めて、ディスカッ
ションするということも可能にさせていただこうと思ってます。一応そこは区長として
は、ある程度賛同していただけてますので、そのような形で行こうかなと思ってます。

○水谷区長

職員を各作業部会で必ず充てるという、要は常在のメンバーとして扱わないほうがフレキシブルだと思うんです。やっぱりこっちもいろいろと仕事を抱えてます。実際、やっぱり作業部会で議論する上で、皆さんそれぞれに優秀だから、ホームページとかで公開情報がある程度チェックするじゃないですか、行政の情報って結構公開情報である程度公開されてる部分があるわけです。そこを調べていただいて、それでみんな議論をしていただいて、それでもわからない部分について、例えば区役所に連絡していただいて、いろいろと取材するという形が一番いいんじゃないかなと思います。私も記者のころ、取材してたわけですが、電話でもある程度の情報ってこれ引き出せます。実際、対面してないとなかなか得られない情報もありますから、それは必要に応じてやっていただくのがいいのかなと。私も区長の公募試験を受けるときに、やっぱり実際大阪市のホームページであるとか、区のホームページであるとか、拝読させていただいたわけですが、かなりの情報がこれはPDFファイル化されてるわけです。どうしてもそれ以上の、例えば人件費何円となって、その細目までわからないわけですから、実際それは電話して問い合わせば、ちゃんと職員の方が答えていただく。見ず知らずの山口県在住者にも答えてくれたんですから、皆さんであれば必ずこれは答えてくれますから、そこら辺はなるべく予習した上で、どうしてもわからないことをちゃんと聞いていただくということだけちょっと踏まえていただければありがたいなと思います。

○田中（英俊）議長

こういう形で作業部会をもって、テーマごとに皆さんが議論し合って、この場で議論する案をつくっていく、深めていくということについては、それは区としては差しさわりないと。

○水谷区長

こういうことは、委員さんの自由意思に委ねられるべきだと思います。

○田中（英俊）議長

はい、ではわかりました。私もそういうふうに思いますけども、ただ、7名の方々はこの提案をしてくれたわけで、参画するおつもりであろうかと思えますけども、議論は2つあって、この3つのテーマの区分けでいいのかということと、皆さん、こういう形でやるときに、7名以外にも皆さん参加していただけますかという、2つについて、忙しい中で月1回でも多いんじゃないかと思ってるのは実は私なんですけども、そういうことも含めまして、いろいろ考え方が、参加できるときだけ出てきてくれということであれば私もできますけども、そういうことも含めてこういうやり方について、どうぞ。

○三木委員

大賛成です。メールのほうでもちょっとこういったやりとりがあったかと思うんですけれども、やっぱりメールというツールを使える方は限られているということで、こういった部会で、部会の少ないメンバーの中で、密にやりとりをしていって、月1回の合同会議の中で、それぞれの集約した意見をぶつけ合うというのはとてもいいアイデアだと思います。これまた私ごとなんですけれども、今も子どもを上役所の方に見ていただいて、ちょっと自習をさせてまして、なかなかその月1回しかないこの会議に参加するのが、私ちょっと難しい面もあって、なのでこういった細かな部会があって、いろんなツールを駆使して、メンバーの方とやりとりをして、意見発信、交換ができるというのはすばらしいと思いますし、賛成です。

○田中（英俊）議長

強制ではなくて、参加してくれということであれば、参加していいよという方、挙手をお願いできますか。

（挙手全員）

○田中（英俊）議長

全員でございますので。テーマも先ほどいろいろ考えた上で、3つのテーマ、グループ、作業部会を考えてくれたと思うんですけども、ただ、進めていく中で、1カ月

ではなかなかまとまらなくて、この間、こういう議論をしましたということは報告できても、まだ議論するまで成案が固まってないということもありましょうし、区のほうとしては、ここについては早目に議論してほしいということもあると思いますし、一つは、ここの場で決めるのも大変ですから、事務局のほうに、私はこの部会が1番目の希望で、2番目の希望はここだっていうような形で、区のほうで集めていただいて、それで分ける、こういう形になったけどそれでいいかということは後で確認をとってもらいますけども、そういう形でグループ分けする、あるいはテーマをとりあえずここで考えますけども、こういうテーマのほうがいいんじゃないかという意見があったら、また次回はそれで議論するとして、とりあえずこの3つに関して、私は1番目にはこれに入りたい、2番目はこれに入りたい、あるいは両方はいっていいという人もいたら、それはよろしいわけで、ただし、その作業部会でツールを使ってやるということですが、やっぱり会うことも必要だと思いますから、それは作業部会の中で話し合って、決めていただくという形で進めるということで、皆さん全員参加ということですので、そういう方向で行きたいと思います。事務局として、そういうやり方について、何かアドバイスなり意見なりございますか。

○事務局

特には。

○田中（英俊）議長

そうですか。じゃあ、そういう形で、じゃあ、事務局のほうにこのテーマで私は、だからダブってもいいわけですね。時間的余裕のある方は、あるいは天王寺区をよりよくするために自分の意見を反映させたいと思う方は、3つ全部に参加してもいいわけで、そうすると毎日参加しなきゃいけないかもしれませんけども。

○水谷区長

作業部会は皆さんのこのフレキシブルにちょっと今日集まって話してみようかみたいな形で、随時もうやっていただく形にしたらいんじゃないかなと思います。

○田中（英俊）議長

そのとき、場所の提供は会議室の提供とか、それはどうですか。7、8人の会議室。それも作業部会、自分たちで場所を探せと。

○水谷区長

ちょっとまた、それはご説明します。そこで、何か7人だけで物事を決めるんじゃないじゃなくて、そこで練ったものを必ず全体会に諮って、ここはもうオープンな場ですから、それでやっぱりいろいろ決まったり、決まらなかったりを繰り返していくというサイクルで議論するのであれば、私としてはもうすばらしいんじゃないかなと思います。

○田中（英俊）議長

実はその今日、4つのテーマにつきましても、私強引に途中で打ち切りをしてまして、できたら1つのテーマでじっくりとしたいという気持ちもあるんですけども、そういうことも踏まえながら、次回等もいろいろ議論していただければというふうに思います。

もう一つ、原田恵子さんのほうから何か。

○原田（恵子）委員

私、実は日本橋中学校の元気アップというところでちょっとお勉強を見てるんですけど、それは私がお勉強ができるからじゃなくて、町内の回覧板で中学校の水やりと図書の整理のボランティアを募集しておりまして、私は水やりに行こうと思ったんですけど、なぜかその元気アップのほうに回って、そこで中学3年生の今使ってる教科書の中にあった文章なんですけど、その最後の国際性、国際性と言われているこの、この文章自体も私はすごくいいなと思って、皆さんに読んでいただきたくてコピーして持ってきました。済みません。

○田中（英俊）議長

ぜひ読ませていただきます。ありがとうございます。

そうしますと、ほかに何かご提案なり、ご意見なり、全体を通して、あるいはこの

会議の進め方等に関して特にご意見ある方いらっしゃいますか。どうぞ。

○三木委員

この作業部会なんですけど、これはそしたらまた、1カ月後になるんですか。それとも

○田中（英俊）議長

事務局に対して皆さん、だから、今週中にここに参加したいというようなことで、先ほど言ったように事務局の高橋さんかどちらになるんですか。

○事務局

こちらのほうに、都度ご連絡いただければ。

○田中（英俊）議長

高橋さんのほうに連絡していただいたら、来週早々には、グループは固まって、連絡ツールもそのとき公開していいという人がいれば、メールとかあるいはファクスとか、連絡し合えるようなグルーピングができるだろうと思う。誰がどこに参加するというようなことについては、皆さんの了解が必要ですが、この方はここここに入りましたということもまとめて、皆さんのほうにお伝えいただくということにしたいと思っています。そのグループの中で、どういう進め方をするかはまた議論していただいて、リーダーを誰かつくるのか、複数のリーダーがいてもいいと思いますし、それは進め方についてはグループごとに議論していただければというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

はい、どうぞ。

○河村委員

区長、会議に任期まで誰も欠けることなく、知恵と力を合わせていきますので区長、よろしくお願いいたします。

○水谷区長

はい、わかりました。

○河村委員

皆さんもういろんな方がおって、くせもあるかもしれないですけど、それ以上に皆さんいい知恵を持ってるんで、それをどんどん区政の肥やしにしてもらったらと思います。

○水谷区長

ぜひ、作業部会発足して、今後の方針という形で一つ結論をまとめてもらって、それを自動的に区としてのむということじゃないことだけご理解ください。ただ、やっぱりそれは一つの結論ですから、それはちゃんと重く受けとめて、のむときはのみますと、のめないときはこういう理由でのめませんというのをちゃんとお伝えしようと思いますから、ぜひそこでいい連携が図れて行ったらいいんじゃないかなと思います。

○田中（英俊）議長

ただ、先ほどの案にありました、後でまた議論しようと思ったんですけども、区政の方針を文章にまとめて提示するというのは、結構大変な作業でして、私もそういう座長を何回もやりましたけれども、ハードネゴも必要だし、嫌われたりすることもありますから。まとめるつもりになったら、誰がまとめるか知りませんけど。

○田中（誠悟）委員

ぜひ、議長が。

○田中（英俊）議長

時間もだんだん迫ってまいりましたけれども、せっかく来ていただきましたので、福島さんから今日の会議の内容とかあるいは今後について、天王寺区のことについて思い入れもあろうかと思いますが、またご発言いただければと思います。

○福島議員

皆さん、どうもお疲れさまでした。

1つは、本当にこの提案というのを出していただいて、非常に積極的に皆さんが参加されてると、言い方は悪いんですけど、今まで役所の地域の団体というのが役所が

言ったことを、先ほどちょっと区長からも話がありましたけども、役所が言ったことをやらせてると言ったら変ですけども、地域の団体というのはあくまでも市役所の下に区役所があって、その下に地域の団体があるわけではなくて、区役所と地域というのは、対等ですので、そういった意味でこういうふうにこれまで区役所側から提案があったことに対して議論をされてることをこういった形でしたらどうかというのは、まさに自立する市民と、区民ということでは非常にいいと思います。議会でも今、いろんな会議があって、部会に分けようという話はしています。ちょっとあれですけど、議会は８８名いますけれども、委員会６個の常任委員会というのが分かれています、その中で１４，５名の常任委員会なんですけど、それでもやっぱりなかなか議論が煮詰まらないときには、プロジェクトチームとかそういった形にしたりしてますので、非常に有意義なご提案をされたなというふうに思っています。この天王寺区の区長ご自身は今までおっしゃってないと思うんですけども、この天王寺区の区政会議というのは、議会でも区長が呼ばれて、これについても議会から質問をして、それは一定の評価を議会でもされています。そういった意味で非常に画期的に取り組んでいただいているというふうに思っております。もちろん、先ほどから冒頭、いろんな区役所の取組について、皆さん方から建設的な批判もあったと思います。子どもに関することはまさに非常に重大なことだと思うので、注意していかなあかんというのは、そのとおりだと思うんです。ただ、区役所の肩を持つわけじゃない、私は皆さん側ですので、私も市民、区民なんですけれども、やっぱりこれまで区役所が安全なことしかしてこなかったですね。２４区同じで、市役所が言ったことを区役所がやってきたと、だから批判されることも区役所の政策の中にはなかったですね。天王寺区の政策というのはなかったと思います。そういった意味で、今、各区が競い合って提案しているので、もちろん皆さん方の批判を受けて、逆にやっぱりこれはやめたほうがいいというふうになることもあるかもしれませんが、今、挑戦していると、各区が挑戦しているというのは、これまでとは非常に違ってきているというふうに思いますので、

その点をご理解いただけたらなと思います。ちょっと関係ないことですが、新しい取組として、今、天王寺公園イルミネーションをやっているんです。これ、市役所か区役所がやっているのかな、公園がやっているのかなと思っていらっしゃる方もいらっしゃるかもしれないですけども、これは完全に民間の財団法人からちょっと相談がありまして、公園を使っただいて、これは便宜供与ではなくて、きっちり使用料を払っていただいています。そういった意味で、これから大阪市もいろんな取組をしているんですけども、天王寺区というのは、非常にそういった財団法人がこういったことをやりたいということで、自前で持ってきてあれやっていますので、もちろん入場料は払いますけれども、そういった取組も企業と官民共同ということでやっておりますので、またお時間があつたら見ていただきたいと思います。

一番重要な予算。予算の議論はこの3月の予算市会で、どれぐらいの予算が各区に振り分けられるかというような議論をしていきます。そのときに決まります。我々の会派としては、各区に権限と予算をおろしていくべきだ、私自身もそういう質問は過去にもしていますので、それによって初めて、この会議だけでなく、天王寺区のいろんな団体とか、区民の皆さんの意向が反映できるような区政を、まさにしていかなければならないと思っておりますので、それを踏まえて、まさにここでおっしゃっていたスピード、先ほどいみじくもご発言あったように、決定できるような形でしていただいたら、非常に有意義な会議になってくると思いますので、また今後ともよろしくお願いします。

今日はありがとうございました。

○田中（英俊）議長

今日はこの1枚紙を中心に区長のつけた優先順位に従って、4つ目のところまで議論できることになりました。あとにつきましても今後議論しますけども、今後分科会の中で詰めたところをまた、区長と議論を闘わせたいというふうに思っております。

今日の議論を踏まえまして、区長からも最後に一言いただければと思います。

○水谷区長

中身の濃い1時間半だったと思います。本当に福島議員も最後コメントありがとうございました。今日は本当に始めたばかりのころ、発言できる人が偏ったり、全く発言できない人が偏ったりという状況もありましたけども、おおむねこっちからこっちまでいろんな発言が出たかなというふうに思います。まさに皆さんの個性が発揮できつつあるなというのを実感します。これをやっぱりさらに今後ますます、こうした傾向を高めていって、よりおもしろくて、より建設的で、より区政のためになる、区民のためになるような議論を続けていけたらと思いますので、これからもまた、よろしく願いいたします。

○田中（英俊）議長

そうしましたら、本日の議事は以上とさせていただきたいと思います。僕はいつも途中で腰を折ったり、話を切ったりしますけれども、始める時間はぴったりに始めて、終わる時間は時間内に終わらせたいというのが主義でございますので。

では、本日の議論は以上にしまして、最後に事務局のほうがお伝えください。

○事務局

ありがとうございます。本日は熱心なご議論をどうもありがとうございました。お手元に第2回の区政戦略会議に関するご意見シートがございます。このシートの形じゃなくても全然結構でございますので、またご意見等ございましたら、お寄せいただきたいと思います。先ほどのお話の作業部会の第1順位、その内容についてもご連絡のほう、よろしくお願いいたします。

次回の会議の日程につきましては、1月の下旬に開催のほうを予定しておりますが、また詳しい日程等につきましては改めてご連絡のほうをさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日の資料及び議事概要、またできましたら後日、天王寺区のホームページで公開してまいりたいと思っております。公開する前にはまた、委員の皆様にもお送りしま

して、内容のほうご確認いただいてから有識者会議の皆様にもお配りのほうをいたしまして、それからホームページのほうで公開してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第２回目の区政戦略会議のほう、終了いたします。
どうもありがとうございました。お疲れさまでした。

—了—